Ⅰ　調　査　結　果　の　概　要

１　漁業・養殖業生産量

令和３年の我が国の漁業・養殖業の生産量は415万7,811ｔで、前年に比べ７万8,094ｔ（1.8%）減少した。

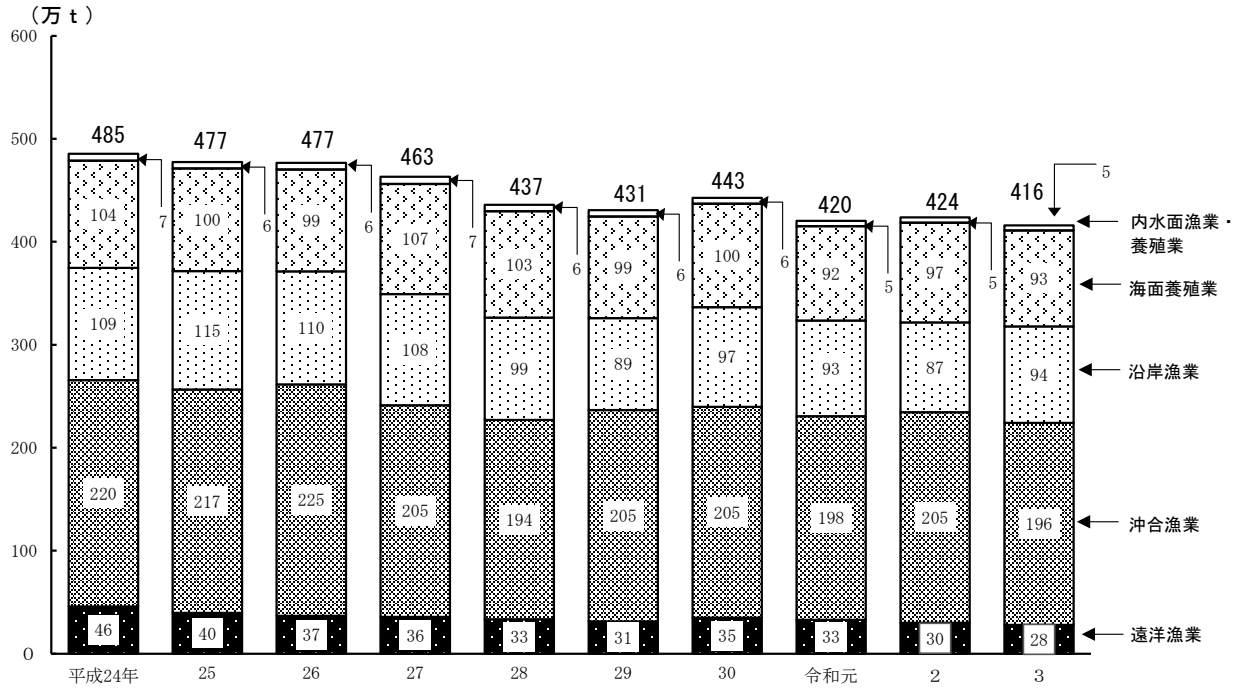
このうち、海面漁業の漁獲量は317万9,413ｔで、前年に比べ３万6,011ｔ（1.1%）減少した。

これを部門別にみると、遠洋漁業は27万8,766ｔで、前年に比べ１万9,675ｔ（6.6%）減少、沖合漁業は196万3,265ｔで、前年に比べ８万2,741ｔ（4.0%）減少、沿岸漁業は93万7,383ｔで、前年に比べ６万6,406ｔ（7.6%）増加した。

また、海面養殖業の収獲量は92万6,641ｔで、前年に比べ４万3,008ｔ（4.4%）減少した。

内水面漁業・養殖業の生産量は５万1,757ｔで、前年に比べ925ｔ（1.8%）増加した。

図１　漁業・養殖業生産量の推移



注：表示単位で四捨五入しているため、合計値と内訳が一致しない場合がある（以下同じ。）。

２　海面漁業

海面漁業の漁獲量は317万9,413ｔで、前年に比べ３万6,011ｔ（1.1%）減少した。

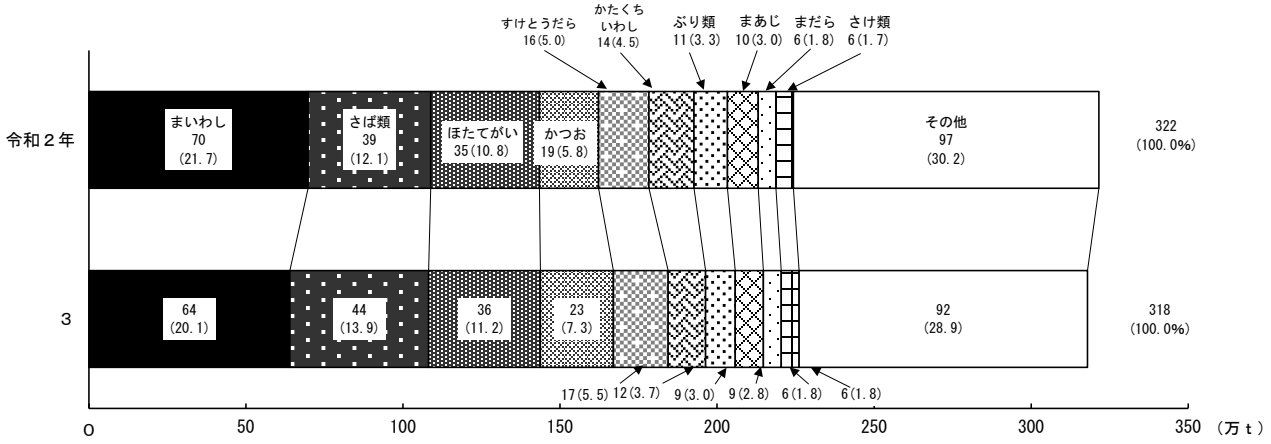
東日本大震災で漁船や漁港施設に甚大な被害を受けた岩手県の漁獲量は７万9,709ｔであり、前年に比べて１万4,026ｔ（21.4%）増加、宮城県の漁獲量は18万4,316ｔであり、前年に比べて１万8,004ｔ（10.8%）増加した。また、福島県の漁獲量は６万2,660ｔであり、前年に比べて8,845ｔ（12.4%）減少した。

主要魚種別漁獲量

海面漁業の魚種のうち、漁獲量が前年に比べて増加した主な魚種は、さば類、ほたてがい、かつお、すけとうだら、まだら、さけ類であり、減少した主な魚種は、まいわし、かたくちいわし、ぶり類、まあじであった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、まいわしが20.1%、さば類が13.9%、ほたてがいが11.2%、かつおが7.3%、すけとうだらが5.5%、かたくちいわしが3.7%、ぶり類が3.0%、まあじが2.8%、まだらが1.8%、さけ類が1.8%となった。

図２　海面漁業主要魚種別漁獲量



(1)　まいわし

漁獲量は63万9,927ｔで、前年に比べ５万8,362ｔ（8.4%）減少した。

これは、三重県等で減少したためである。

(2)　さば類

漁獲量は44万1,837ｔで、前年に比べ５万1,541ｔ（13.2%）増加した。

これは、長崎県、宮城県等で増加したためである。

(3)　ほたてがい

漁獲量は35万5,950ｔで、前年に比べ9,937ｔ（2.9%）増加した。

(4)　かつお

漁獲量は23万2,270ｔで、前年に比べ４万4,334ｔ（23.6%）増加した。

これは、静岡県、宮崎県等で増加したためである。

(5)　すけとうだら

漁獲量は17万4,525ｔで、前年に比べて１万4,200ｔ（8.9%）増加した。

これは、北海道等で増加したためである。

(6)　かたくちいわし

漁獲量は11万8,923ｔで、前年に比べ２万4,911ｔ（17.3%）減少した。

これは、愛知県、三重県等で減少したためである。

(7)　ぶり類

漁獲量は９万4,608ｔで、前年に比べ１万1,707ｔ（11.0%）減少した。

これは、岩手県等で減少したためである。

(8)　まあじ

漁獲量は８万9,615ｔで、前年に比べ8,275ｔ（8.5%）減少した。

これは、島根県等で減少したためである。

(9)　まだら

漁獲量は５万6,950ｔで、前年に比べ644ｔ（1.1%）増加した。

(10)　さけ類

漁獲量は５万6,658ｔで、前年に比べ663ｔ（1.2%）増加した。

図３　海面漁業主要魚種別漁獲量の推移
（上位１位～５位）

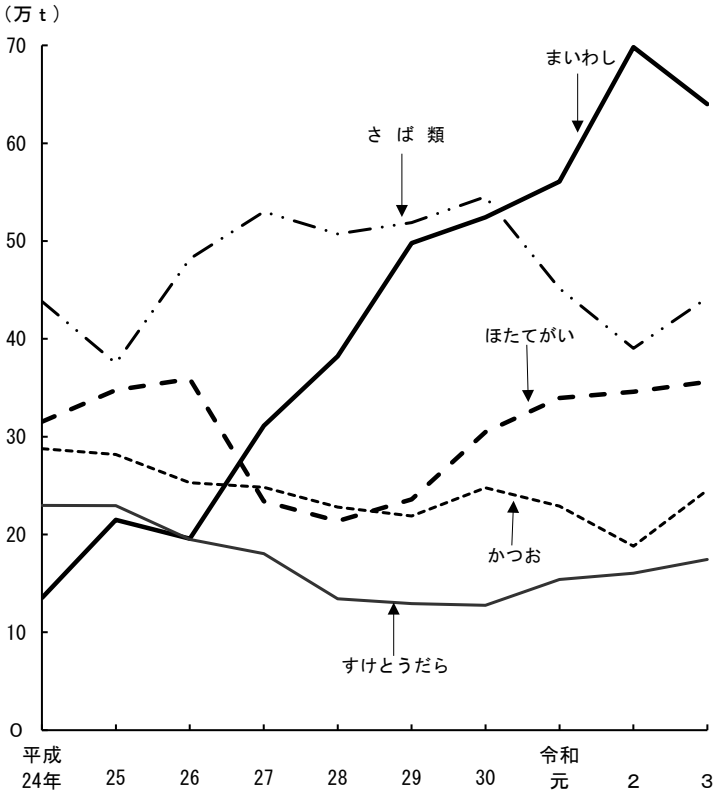
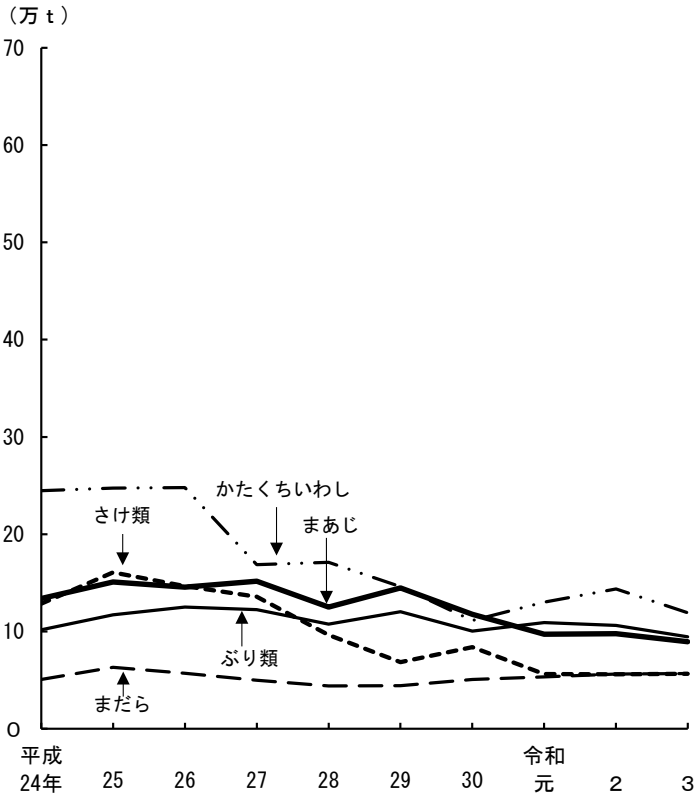


図４　海面漁業主要魚種別漁獲量の推移
（上位６位～10位）



３　海面養殖業

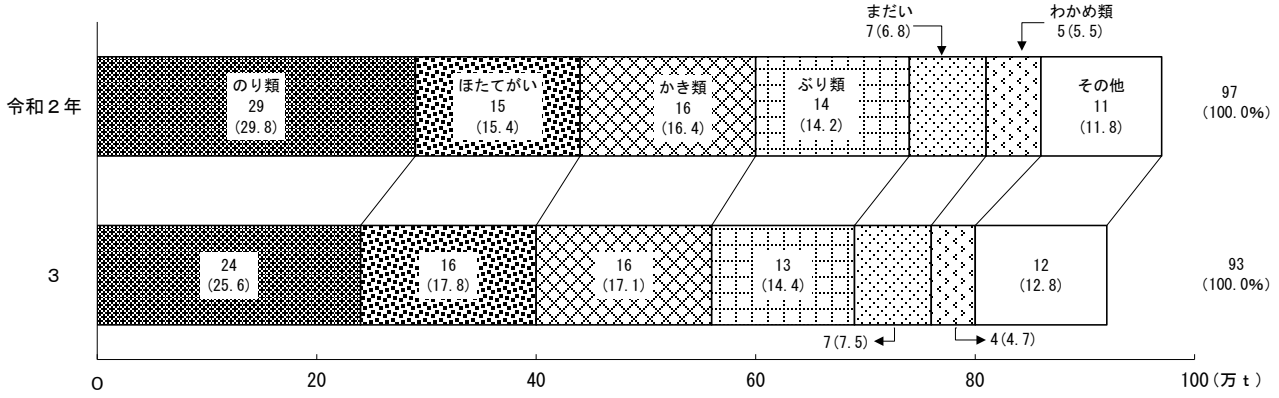
海面養殖業の収獲量は92万6,641ｔで、前年に比べ４万3,008ｔ（4.4%）減少した。

東日本大震災の影響で養殖施設に甚大な被害を受けた岩手県の収獲量は３万1,021ｔ、宮城県の収獲量は８万3,040ｔであり、岩手県は前年に比べて602ｔ（2.0%）増加し、宮城県は前年に比べて758ｔ（0.9%）減少した。

海面養殖業の魚種のうち、収獲量が前年に比べて増加した主な魚種は、ほたてがい、まだいであり、減少した主な魚種はのり類、かき類、ぶり類、わかめ類であった。

この結果、海面養殖業の収獲量に占める主要魚種の割合は、のり類が25.6%、ほたてがいが17.8%、かき類が17.1%、ぶり類が14.4%、まだいが7.5%、わかめ類が4.7%となった。

図５　海面養殖業主要魚種別収獲量



(1)　魚類

収獲量は25万6,199ｔで、前年に比べ4,279ｔ（1.7%）増加した。

ア　ぶり類

収獲量は13万3,691ｔで、前年に比べ3,820ｔ（2.8%）減少した。

イ　まだい

収獲量は６万9,441ｔで、前年に比べ3,468ｔ（5.3%）増加した。

これは、高知県等で増加したためである。

ウ　ぎんざけ

収獲量は１万8,482ｔで、前年に比べ1,149ｔ（6.6%）増加した。

これは、宮城県で増加したためである。

(2)　貝類

収獲量は32万3,745ｔで、前年に比べ１万5,295ｔ（5.0%）増加した。

ア　かき類

収獲量は15万8,789ｔで、前年に比べ230ｔ（0.1%）減少した。

イ　ほたてがい

収獲量は16万4,511ｔで、前年に比べ１万5,450ｔ（10.4%）増加した。

これは、北海道、宮城県で増加したためである。

図６　海面養殖業魚種別収獲量の推移（魚類）

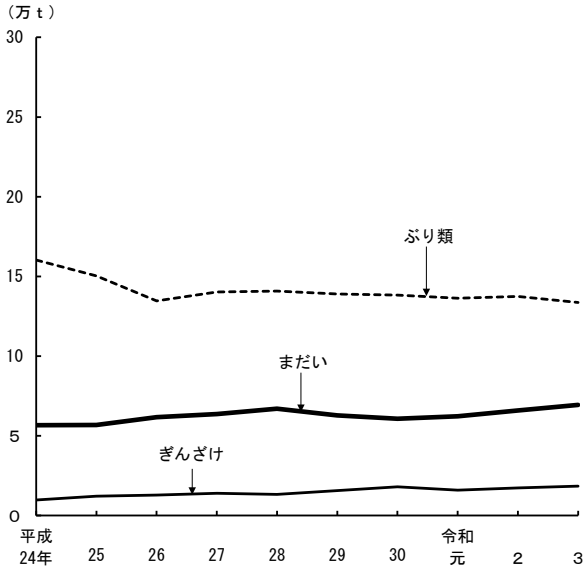
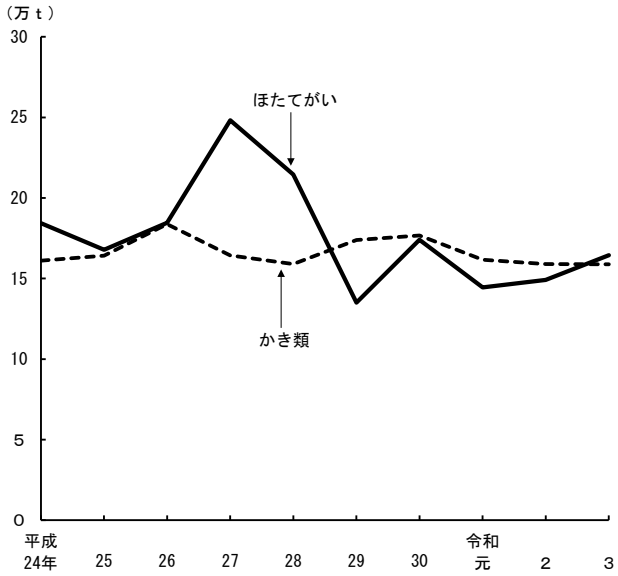


図７　海面養殖業魚種別収獲量の推移（貝類）



(3)　海藻類

収獲量は33万5,844ｔで、前年に比べ６万2,472ｔ（15.7%）減少した。

ア　のり類（生重量）

収獲量は23万7,255ｔで、前年に比べ５万2,141ｔ（18.0%）減少した。

これは、佐賀県、兵庫県等で減少したためである。

イ　わかめ類

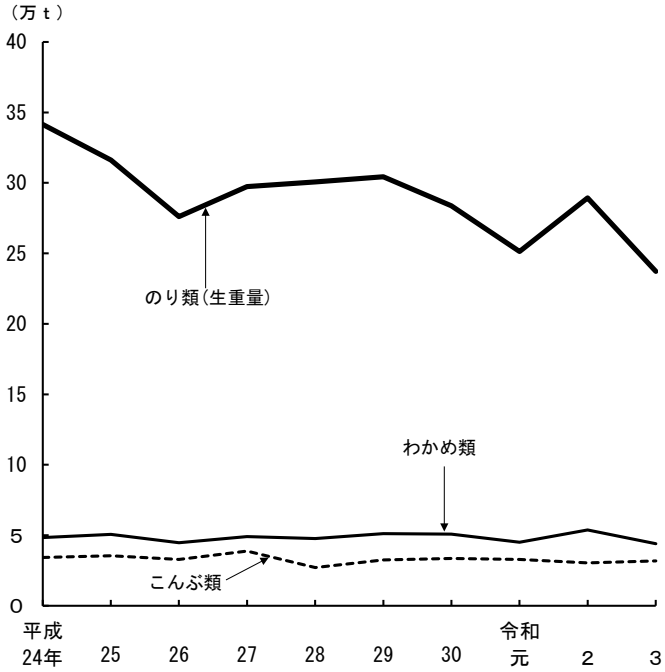
収獲量は４万3,972ｔで、前年に比べ9,837ｔ（18.3%）減少した。

これは、宮城県、岩手県等で減少したためである。

ウ　こんぶ類

収獲量は３万1,691ｔで、前年に比べ1,387ｔ（4.6%）増加した。

図８　海面養殖業魚種別収獲量の推移（藻類）



４　内水面漁業

内水面漁業（全国の主要113河川及び24湖沼）の漁獲量は１万8,904ｔで、前年に比べ2,841t（13.1％）減少した。

(1)　河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は8,307ｔで、前年に比べ2,214ｔ（21.0％）減少した。

また、湖沼における漁獲量は１万596ｔで、前年に比べ628ｔ（5.6％）減少した。

(2)　主要魚種別漁獲量

ア　しじみ

漁獲量は9,001ｔで、前年に比べ107ｔ（1.2％）増加した。

イ　さけ類

漁獲量は4,873ｔで、前年に比べ1,736ｔ（26.3％）減少した。

これは、北海道、山形県等で減少したためである。

ウ　あゆ

漁獲量は1,854ｔで、前年に比べ230ｔ（11.0％）減少した。

これは、神奈川県、滋賀県等で減少したためである。

エ　わかさぎ

漁獲量は687ｔで、前年に比べ248ｔ（26.5％）減少した。

これは、青森県、北海道等で減少したためである。

オ　しらうお

漁獲量は375ｔで、前年に比べ132ｔ（26.0％）減少した。

これは、青森県、茨城県等で減少したためである。

図９　内水面漁業主要魚種別漁獲量

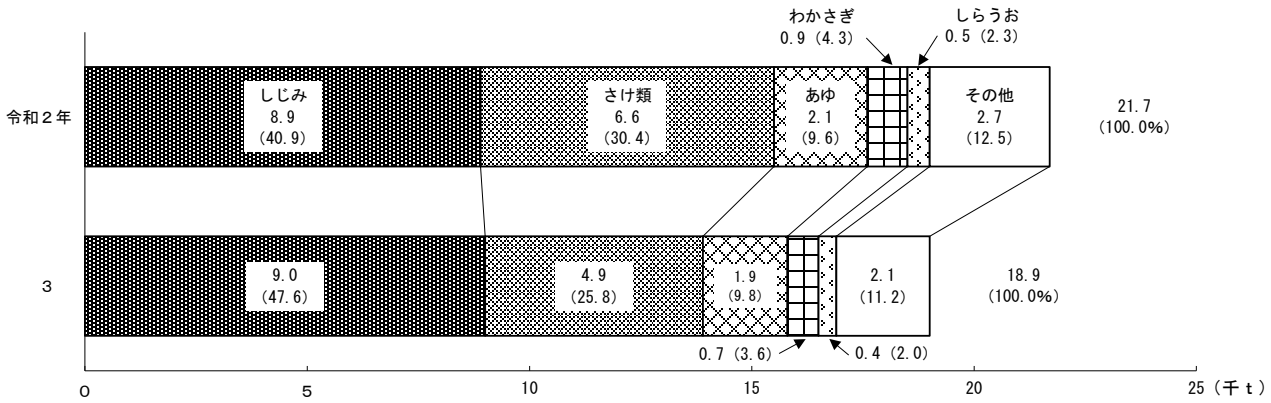
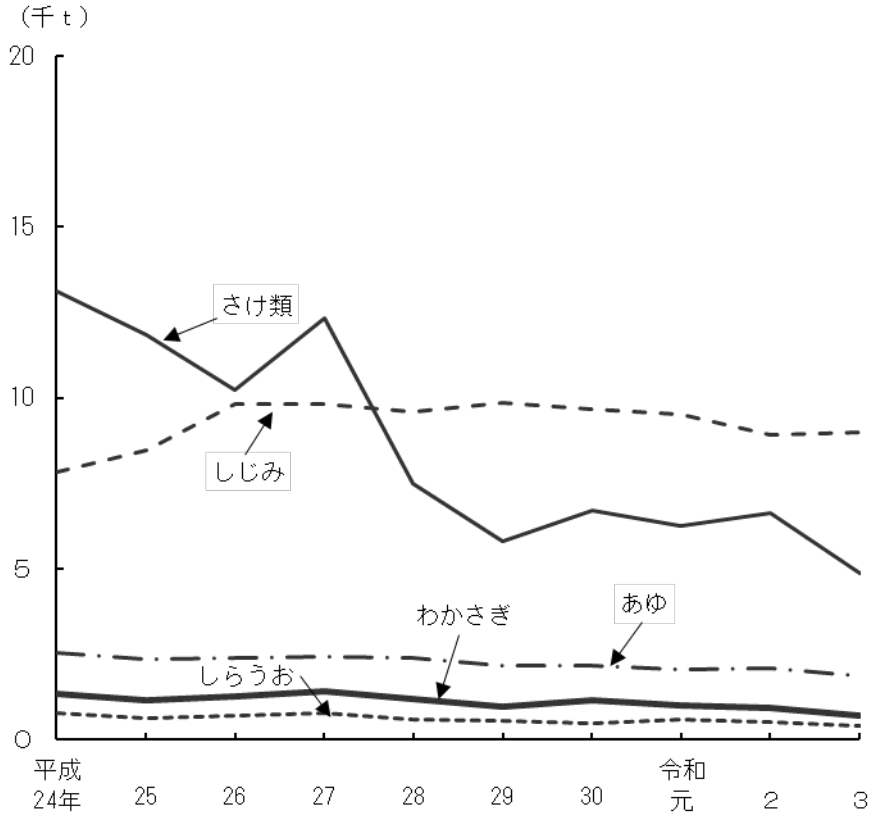


図10　内水面漁業主要魚種別漁獲量の推移



５　内水面養殖業

内水面養殖業の収獲量は３万2,854ｔで、前年に比べ3,767ｔ（13.0%）増加した。

(1)　うなぎ

収獲量は２万673ｔで、前年に比べ3,867ｔ（23.0%）増加した。

これは、鹿児島県、愛知県等で増加したためである。

(2)　にじます

収獲量は4,161ｔで、前年に比べ303ｔ（7.9%）増加した。

これは、静岡県等で増加したためである。

(3)　あゆ

収獲量は3,909ｔで、前年に比べ135ｔ（3.3%）減少した。

(4)　こい

収獲量は2,064ｔで、前年に比べ183ｔ（8.1%）減少した。

これは、茨城県等で減少したためである。

図11　内水面養殖業主要魚種別収獲量

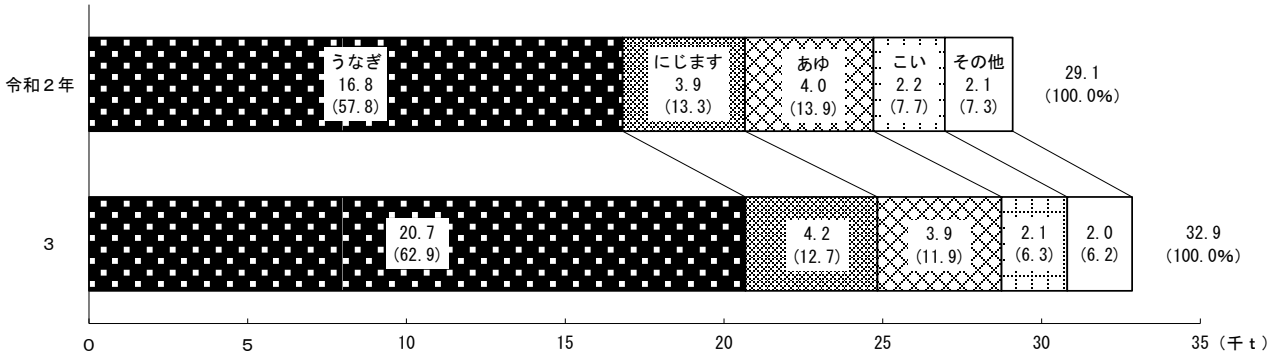
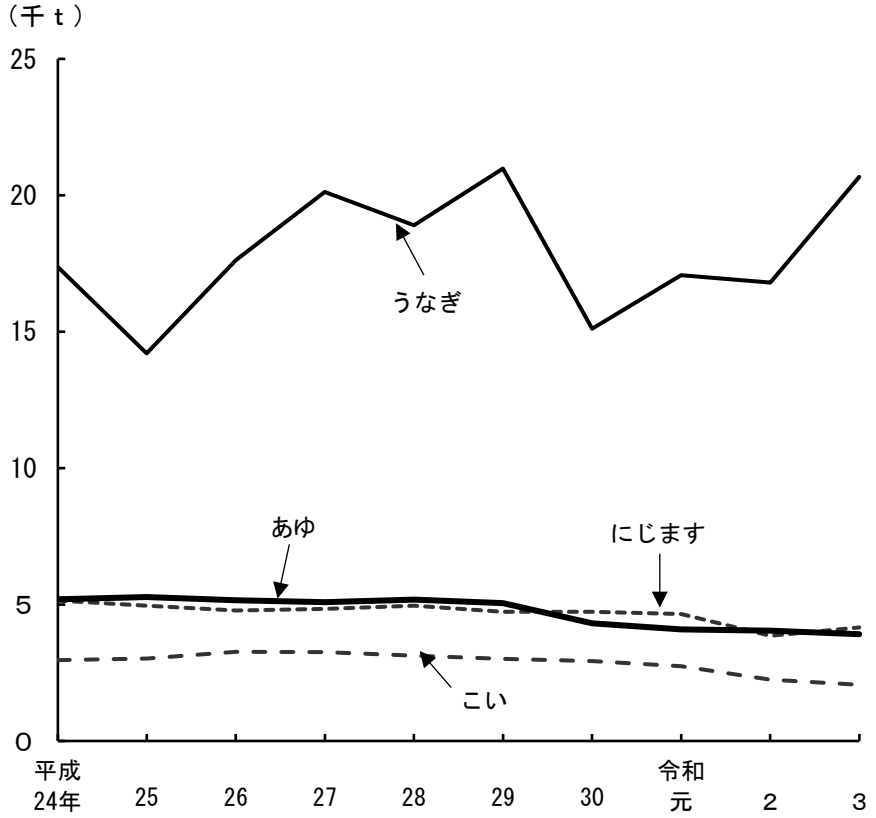


図12　内水面養殖業主要魚種別収獲量の推移



なお、観賞魚販売量について、にしきごいの販売量は257万84尾で、前年に比べ６万2,291尾（2.5％）増加した。